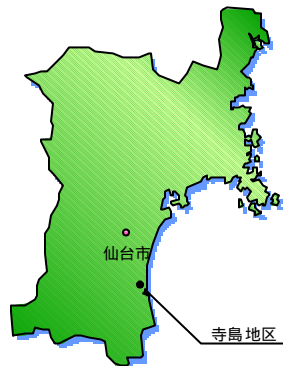


特集：おらほの農地集積

寺島地区

・地区の概要

事業名	ほ場整備事業（担い手育成型）	担い手農家	3戸
関係市町村名	岩沼市		2法人
関係土地改良区	名取土地改良区、		1組織
工期	平成9～17年度		
受益面積	98.5ha	担い手経営面積	
総事業費	2,566百万円	実施前	16.7ha
組合員数	139人	H13年度	20.5ha
		担い手農地	
		集積増加率	13.4% (H13)



・集落ぐるみでやることの楽しさが原点！



岩沼市、寺島地区で、ほ場整備事業が採択されたのを一つの契機として、地域の担い手不足、農業従事者の高齢化、耕作放棄地など現在の農村をめぐる諸問題の解消を集落ぐるみで取り組むことで農村の活性化を図ることを目的に、県のアグリビジネス創造型生産基盤整備支援事業などを活用し、平成12年6月に農業生産組織「コスモ農研」を設立した。

メンバーは9人、会社役員、ハウスキュウリの栽培農家、水稲栽培（兼業）農家など様々。メンバーの中には産業廃棄物処理の資格を持っている人もいます。

設立のきっかけは、宮城県仙台産業振興事務所主催により平成11年8月に行われた「HOT Terashima Cosmo Matsuri」で、郷土芸能、産直コーナーなどを寺島地区の納屋集落（納屋というのは俗称で、昔、この近くではサケがよく穫れ、伊達家へ献上するため作られた保管蔵（納屋）があったことから、この集落の名前を納屋と呼ぶようになったとか……）。正式には「新浜」という地名なんだそうです。）の人達が、集落ぐるみで手伝ったことによる。納屋の人達がこのイベントを通じ、心が1つになったことへの満足感。そして、なによりも楽しかったことがコスモ農研発足につながったそうです。

また、ふとしたことからはじめた農産物直売（最初はメンバーの誰もが乗り気ではなかったそうです。）の試みが、県道塩釜・亘理線沿いという立地条件も手強い、当初見込んだ

1日の売り上げ予想額3～4万円が、なんとその4倍程度の12～16万円となるなど、うれしい誤算が法人化へ向けて一気に加速。平成13年10月4日、農業生産法人（有）コスモ農研として再スタートした。

納屋集落は岩沼市で最も早く（昭和35年）からハウスきゅうり栽培に取り組んだ地区でもあり、「仙台きゅうり」の名で仙台市場に出荷されていることでよく知られていました。当時は27戸あったきゅうり栽培農家も今ではコスモ農研の代表取締役を務める高橋さんを含めて4戸（全員コスモ農研の社員）だけになってしまったそうです。

会社概要

- ・会社名 有限会社 コスモ農研
- ・住所 宮城県岩沼市寺島字南瀬崎243
- ・設立 平成13年10月4日
- ・資本金 3,150,000円
- ・代表取締役 高橋 英男

事業内容

- 農産物の生産、加工、販売
- 農作業の受託、請負耕作
- 農業土木工事
- 有機質肥料の製造
- 産業廃棄物(ビニール)処理、運搬



・目指すは1集落1農場

「コスモ」とは宇宙を意味し、無限の可能性を秘めていることから「コスモ農研」と名付けたそうだ。社員は（有）コスモ農研としての法人経営とは別に、それぞれ個別の経営（ハウスきゅうり栽培等）を行いながら、寺島地区の担い手として、ほ場整備事業により大区画化した納屋集落の農地全て（35ha）を一手に担うことが当面の目標。これと同時に農産物の加工・販売等の事業等も展開していく予定だ。

・直売所は地域の交流の場



コスモ農研では、現在、農産物の直売所「ぼっちゃん広場」を開設している。

「ぼっちゃん」とは「'89グリーンフェアせんだい」（仙台市制100周年および政令指定都市移行の記念事業として、1989年7月から10月にかけて行われた花と緑の博覧会。メイン会場は現在の仙台市泉区七北田公園のあるところ。）のマスコットキャラクター「水玉ぼっちゃん」のこと。

当時、会場に設置されていた水玉ぼっちゃんのもニュメントを譲り受け、現在のコスモ農研の直売所のあるところに移設したことから「ぼっちゃん広場」と名付けたそうだ。

ポッチャン広場の運営は、コスモ農研9人の社員の奥さんたちが従業員として売り場を仕切っている。営業は毎週、土・日の週に2日間のみ、社員が生産した野菜、漬け物、みそなどの加工品、

花卉などを持ち込み、その場で直接販売する。まさに生産者による産地直売なのである。もちろん社員以外の持ち込みもOKということだ。持ち込んだ品物の売り上げに対し、社員が10%、社員以外は15%の販売手数料を徴収するのみ。当然、そこには流通などに伴う中間マージンなどはない。朝、取れたばかりの新鮮な野菜が、しかも安い価格で店先に並ぶのだ。消費者にとって、これほど嬉しいことはないのである。

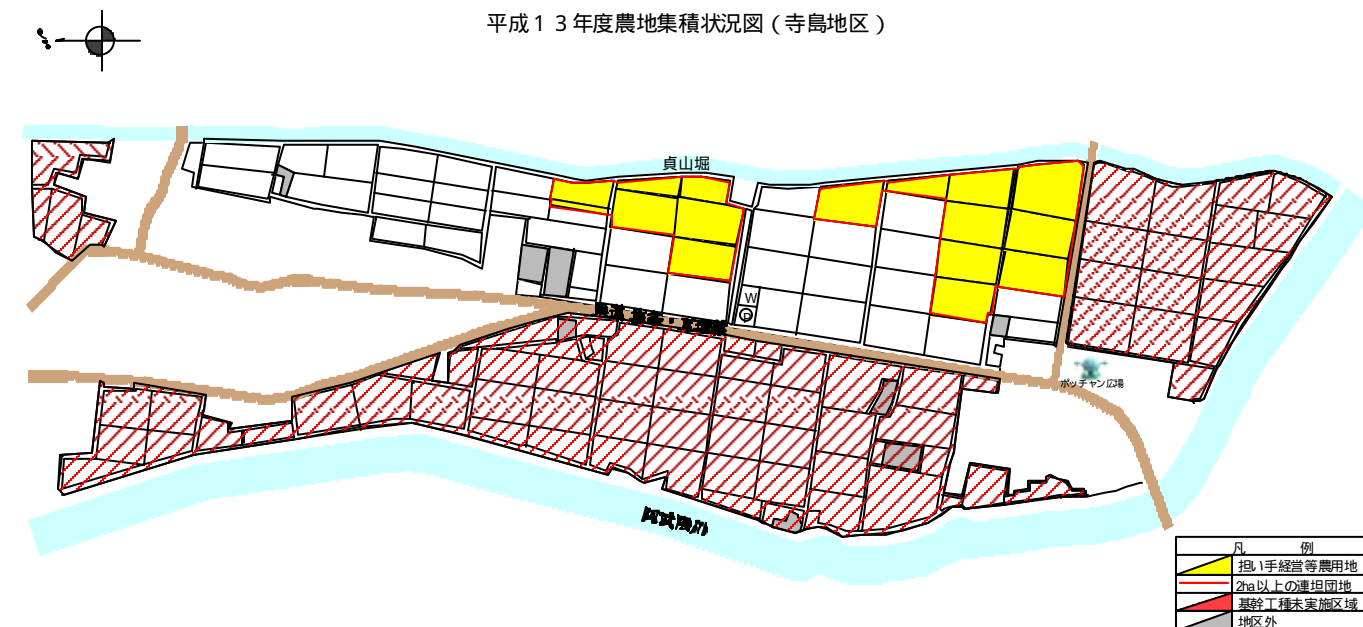
ぼっちゃん広場を開設するまでは、畑や田んぼでの農作業しかしたことのないおかあちゃんたち、ましてや人前で物を売ることなど全く経験がないため、始めはおろおろするばかりだったことなど高橋さんはぼっちゃん広場開設当時を振り返る。

生産者にとって消費者の顔が直に見られ、会話が出来るのは産直ならではのこと。「おいしかった」と言われるとさらにうれしい。なによりもおかあちゃんたちが生き生きしてきたという。集落の人たちも直売に参加する人たちが増えてきた。まさに、ぼっちゃん広場は生産者と消費者だけではなく、納屋集落の交流の場になっている。

こうしてスタートした農業生産法人（有）コスモ農研の試みはまだ始まったばかりだ。冬場に直売所の品物が品薄になることや個別経営との両立など、これから取り組んでいかなければならない課題も数多くある。

だが、新たな担い手の出現で地域が徐々に活気づいてきたことだけは確かだ。今後の活躍にエールを送りたい。

平成13年度農地集積状況図（寺島地区）



- 問い合わせ先 -

〒981-1226 名取市植松字錦田84-1
名取土地改良区
TEL.022-382-5211 FAX.022-384-3759